

## 年間指導計画と実践で活用できる事例 [4歳児] 目次

2	4歳児 年間指導計画	32
	4歳児 実践で活用できる事例	
	「新しい保育室で遊ぶのはうれしいな」 (生活) 4月	40
	「身の回りをきれいにしましょう」 (生活) 12月	42
	「トンネルがつながったよ」 (人とのかかわり) 5月	44
	「一緒に遊びたいけれど」 (人とのかかわり) 12月	46
	「ダンゴムシはかわいいね」 (学び) 5月	48
	「自分のくるまが作りたいな」 (学び) 10月	50
	「成長の姿を理解してもらいましょう」 (保護者との連携・理解啓発) 4～6月	52
	「親子のふれあいを大切にしましょう」 (保護者との連携・理解啓発) 2月	54



## 2 4歳児 年間指導計画

### 4歳児年間指導計画

4月～5月

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

台東区の幼児教育がめざす姿

○自然や身近なことに興味をもち、豊かな心と体をもち、きまわりを守り行動できる子供  
○やさしさをもち、友達と協力して物事をやりとげようとする子供  
○健やかな心と体をもち、きまわりを守り行動できる子供

		内 容	
3 つ の 柱	生活	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>し〇〇て新進級し環境に慣れるようになる</li> <li>〇楽しむ生活の仕方が分かる、安心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できることは自分なりにしてみる →P.40</li> <li>・手洗い、うがいの大切さが分かる行う</li> <li>☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化</li> <li>・所持品の置き場所や始末の仕方、いろいろな遊具・用具の置き場所や使い方、片付け方が分かり、自分でしようとする →P.40</li> <li>・新しい遊具や用具の安全な遊び方、使い方を知る</li> <li>・生活の仕方や流れを知り、自分なりにしようとする</li> <li>・生活の中で欲しいこと、困ったことなどを、自分から保育士・教員に言う</li> <li>・社会や安全のルールを知り、自ら気を付けようとする</li> </ul> <p>→運動・体力の基礎 ☆体力の向上④</p>
	人のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇保育士・教員や友達と楽しむ</li> <li>〇遊ぶ友達やその場に親しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の動きを気にとめながら、自分なりの遊びを楽しむ</li> <li>・遊びたい友達と同じ場で遊んだり、同じものを身に付けてりしてかかわりながら動くことを楽しむ →P.44</li> <li>・みんなで歌を歌ったり、体を動かして遊んだりすることを楽しむ</li> <li>・みんなと同じ場で、保育士・教員や友達の動きを見ながら、自分なりに動いていく楽しさを感じる</li> </ul> <p>☆規範意識の芽生えの育成②</p> <p>・友達と楽しく遊ぶためにはルールがあることを知る</p> <p>・保育士・教員に親しみをもって遊んだり生活したりする</p> <p>→進級したことが分かり、大きくなったことに喜びを感じる</p> <p>・保育士・教員や仲のよい友達とあいさつをする →P.178</p> <p>☆こころざし教育③</p> <p>→道徳の基礎</p>
	学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇自分ながら楽しむ</li> <li>〇好きな遊びを見つけ、友達とかかわりながら楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えたことを言葉で保育士・教員に伝えようとする</li> <li>・友達と一緒に保育士・教員の話の親しみをもって聞く</li> <li>・保育士・教員の読む絵本や紙芝居などを見たり聞いたりすることを楽しむ</li> <li>・春の自然に触れる心地よさを感じたり、身近な動植物に親しみをもったりする →P.48</li> <li>・散歩や戸外活動で、春の自然を感じる →言葉・表現の基礎</li> <li>☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化</li> </ul> <p>・自分なりのよりどころとなるものを見つけ、自分のしたことややったことを動きに出しながら、好きな遊びを楽しむ</p> <p>・様々な素材や材料に興味をもち、自分なりにかかわって繰り返し楽しみ創造力を広げていく →表現活動の基礎</p> <p>・身近なものを通して、数や量、色、形、文字に関心をもつ →文字・数量・図形の基礎</p> <p>・地域の文化や芸術に触れ、本物を知る経験を通して地域への興味・関心をもつ</p> <p>☆地域財産等の活用</p>

### 保護者・地域との連携

連携のねらい	
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の教育方針、1年間の教育活動を理解し、見直しをもつ</li> <li>・子供の発達、育ちを知り、就学前教育や家庭教育の大切さを理解する</li> <li>・保育士・教員に信頼感をもつ</li> <li>・家庭での生活状況を伝える</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の発達や育ちを知り就学前教育や家庭教育の大切さを理解する</li> <li>・地域行事等で子供たちとかかわり、親しみをもつ</li> </ul>
園児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事に参加し、地域の方々に親しみをもつ</li> </ul>

### 連携の例

- ・保護者会
  - ・家庭訪問
  - ・個人面談
  - ・公開保育、懇談会 →P.52
  - ・親子安全指導
  - ・園だより、学年だより等の配布
- ☆地域財産等の活用
- ・地域行事への参加(お祭り等)
  - ・上野動物園の遠足

<年間計画の参考になる資料>①「学校における「食育」の推進」(平成20年度)①「台東区の幼稚園・小学校・中学校のつながりのある楽しい食育」(平成21年度)③「下町台東の美しい心づくり」(平成19年度) ③「こころざし高く 教師用指導書」(平成20年度)読み聞かせ資料編 364ページ ③「下町っこ みんなの約束」

→P.〇〇 は、関連する事例が掲載してあるページを示す

保育・教育の実践において重視する点(幼児期)  
1 主体的な活動、協同的な遊び 2 見る、聞く、話す力の育成 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

環境・援助	保育・教育資料(例)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境に緊張したり、不安定になったりするので、子供の様子に応じて一人一人が安心して生活できるよう一人一人の思いを十分に受け入れていく</li> <li>・所持品の始末や片付け等、自分なりにやっつけていこうとする気持ちを認め、個人差に応じて丁寧に繰り返し指導していく</li> <li>・あいさつ、交通ルール、食事の準備・マナー、集会への参加のしかた等、進級をきっかけにして、日常生活の習慣や園生活のきまりを生活の中で確認していく</li> <li>・クラスの人々と一緒に集まって活動することの楽しさが味わえるよう教材や内容を工夫する</li> </ul>	<p>《戸外で体を十分に動かして遊ぶ心地よさを味わえるように》 引越し鬼 ボール遊び(蹴る、転がす、投げる、つくなど)</p> <p>《学級の人々と一緒に集まって活動する楽しさが味わえるように》 いちごみるく 追いかけ鬼 引越し鬼 島鬼 ひも取り鬼(チームなし) 等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入園児には一人一人が安心できる遊具や落ち着ける場を用意したり、保育士・教員と一緒に遊んだりする</li> <li>・保育士・教員や友達と触れ合う時間を十分に保障する</li> <li>・一人一人の気持ちを受け止め寄り添いながら保育士・教員との信頼関係を作り、安心して自分を出していけるようにしていく</li> <li>・友達とかかわって遊べるような場(巧技台の場、遊びのコーナー等)や遊び方を提示し、保育士・教員も一緒に遊びの仲間になりながら、友達とのかかわりの楽しさを感じられるようにしていく</li> </ul>	<p>《友達とかかわって遊ぶ楽しさを味わえるように》 砂場遊び おうちごっこ 製作コーナーでの遊び 遊びの場を作るための衝立、積み木、ござ等</p> <p>《友達と一緒に過ごすことを楽しいと感じられるように》 絵本「そらまめくん」シリーズ 「たろうのおでかけ」シリーズ 「だるまちゃん」シリーズ 「ばばあちゃん」シリーズ 「10ひきのかえる」シリーズ 「11ひきのねこ」シリーズ 等 歌「しあわせなら手をたたこう」</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進級児には、3歳児の頃に経験した遊具や用具を準備したり、興味もてるような素材を新しく提示したりしていく</li> <li>・4歳児になり使えるようになった遊具、用具の使い方を保育士・教員と一緒に遊びながら知らせる</li> <li>・一人一人が、興味をもって遊んでいる様子を認めたり、遊びに必要な物を一緒に考えたりする</li> <li>・新しい環境を試したり工夫したりする時間を十分に保障する</li> <li>・絵本や紙芝居等、子供の興味・関心に合った内容を用意し、楽しめるようにしていく</li> <li>・5歳児が世話している様子を見せたり、保育士・教員と一緒にやってみたりしながら、動植物への親しみや興味をもたせていく</li> <li>・動物のアレルギーのある子供には十分配慮する</li> <li>・自然の変化や草花、虫の様子などに気付かせたり、親しみをもたせていく</li> </ul>	<p>《新しく遊具・用具を提示し、興味・関心をもてるように》 中型積み木 巧技台等</p> <p>《様々な素材や材料に興味をもち扱えるように》 こいのぼり作り</p> <p>《動植物への親しみや興味もてるように》 ダンゴムシ捕り 種まき 野菜の苗植え 土作り 絵本「ダンゴムシ」「ぼく、だんごむし」 「はらぺこあおむし」 歌「ありさんのおはなし」「ことりのうた」</p> <p>《春の季節に興味をもち、楽しめるように》 歌「はるがきたんだ」「みどりのマーチ」</p>

#### 家庭との連携

- ・新入園児の保護者の不安な気持ちを受け止めて、親子で安心して園生活を楽しめるように配慮をしていきましょう
- ・4歳児は友達とのかかわりが増えるので、トラブルや友達関係などの不安なことは、担任をはじめ園の職員にいつでも相談できることを伝え、1年間の成長をともに見守る関係づくりをしていきましょう
- ・園での様子や家庭での様子を伝え合い、信頼関係を築きながら、園と協力して子育てしていくことの大切さを伝えていきましょう

#### 地域との連携

- ・入園式や地域の祭礼などで地域の方々に出会ったときに保育士・教員と一緒にあいさつをし、子供たちが地域の方々に親しみもてるようにしましょう
- ・近隣の公園の花や地域の祭礼など地域の自然・行事を保育に取り入れたりと、散歩にでかけたりなど、地域とかかわる機会をつくりましょう

②「幼児の規範意識を育む」(平成20年度)②「幼稚園・小学校の円滑な接続を目指して」(平成18年度)  
(平成21年度) ④「見つめ直そう 子供の体力」(平成21年度)

## 4 歳児年間指導計画 6 月～9 月

3 歳児

4 歳児

5 歳児

1 年生

台東区の幼児  
教育がめざす  
姿

○健康やかな心と体をもち、きまりを守り行動できる子供  
○やさしさや思いやりをもち、友達と協力して物事をやりとげようとする子供  
○自然や身近なことに興味をもち、自ら考え、豊かに表現する子供

	ねらい	内 容
3 つ の 柱	生 活	<p>○保育士・生活・教員や友達と必要となかかかわりを</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の生活習慣や雨の日の生活の仕方を知り、自分でしようとする</li> <li>・手洗い、うがいの大切さが分かり行う</li> <li>☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化</li> <li>・遊具や用具を大切に、安全に使う</li> <li>・プール遊びや水遊びの準備や片付けを保育士・教員と一緒にしていこうしたり、自分でしようしたりとする</li> <li>・プール遊びや水遊びの約束を知り、守ろうとする</li> </ul> <p>→運動・体力の基礎 ☆体力の向上④</p> <p>・水を使ったいろいろな遊びに興味をもち、水の感触、や解放感、水の中で体を動かす心地よさを感じる</p> <p>・保育士・教員と一緒に音楽に合わせて踊ったり体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ</p> <p>→運動・体力の基礎 ☆体力の向上④</p> <p>・夏野菜の栽培を通して、生長を見るなどして、食物への興味・関心をもつ</p> <p>・箸を正しく持って食事をしようとする</p> <p>☆食育①</p>
	人とのかかわり	<p>○自分の気持ちや動きを出しな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に遊びたい友達と遊ぶ中で同じような動きを楽しんだり、同じものをつくりたりして遊ぶことを喜ぶ</li> <li>・友達と一緒に遊びながら自分の思ったことやイメージを動きや言葉に出して表したり、友達の動きや言葉に気付いたりする</li> <li>・クラスの間など過ごす中で、みんなと動くことを楽しんだり、自分なりの動きを楽しんだりする</li> <li>・友達と一緒に絵本を見たり音楽に合わせて動いたりしながら、自分なりに楽しむとともに友達と一緒にいることの楽しさを感じる</li> </ul> <p>☆規範意識の芽生えの育成②</p> <p>・友達と遊ぶ中で、自分の思い通りにならないこともあることを感じる</p> <p>・ルールを守ると楽しく遊べることが分かる</p> <p>☆規範意識の芽生えの育成②</p> <p>・みんなで取り組む遊びや活動に喜んで参加し、友達に親しみをもち</p> <p>→道徳の基礎</p> <p>・保育士・教員や仲のよい友達と元氣よくあいさつをする</p> <p>☆こころざし教育③</p>
	学 び	<p>○興味を取りつ組んだことを繰り返したり、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな遊びに興味をもち、自分からかかわろうとする</li> <li>・自分の気持ちやイメージを言葉や動きに出し、保育士・教員や友達に伝えようとする</li> <li>→P. 222</li> <li>・友達の言葉や動きを受けて、イメージを膨らませたり、遊びに取り入れたりする</li> <li>・季節の変化に気付いたり、自然現象や身近な動植物に関心をもって見たりする</li> <li>・水、砂、土、泥などの自然物に触れて感触を楽しみながら遊ぶ →言葉・表現の基礎</li> <li>☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化</li> </ul> <p>→表現活動の基礎</p> <p>・保育士・教員が用意した環境に興味をもってかかわり、保育士・教員や友達と一緒にすることを楽しんだり、自分なりに動き出したりする</p> <p>・自分なりのイメージで、場や物を作ったり実現したりすることを楽しむ</p> <p>・いろいろな素材や材料に興味をもって自分からかかわり、自分なりに工夫して描いたり、作ったりすることを楽しむ</p> <p>→表現活動の基礎</p> <p>・地域の文化や芸術に触れ、本物を知る経験を通して地域への興味・関心をもつ</p> <p>☆地域財産等の活用</p> <p>・身近なものを通して、数や量、色、形、文字に関心をもつ</p> <p>→文字・数量・図形の基礎</p>

保護者・地域との連携

連携のねらい	
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の子供の成長を喜ぶ</li> <li>・夏休みを前に園との連携を密にする(幼稚園)</li> <li>・2学期の教育方針や教育活動について理解する</li> </ul>
地 域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の発達や育ちを知り、就学前教育や家庭教育の大切さを理解する</li> <li>・地域行事等で子供たちとかわり、親しみをもつ</li> </ul>
園 児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事に参加し地域への興味・関心をもつ</li> <li>・地域の方々と親しみをもってかわる</li> </ul>

連携の例

- ・公開保育 →P. 52
- ・祖父母参観(七夕の時)
- ・災害時引取り訓練
- ・園だより、学年だより等の配布

☆地域財産等の活用

- ・地域行事への参加(お祭り、朝顔市、盆踊り)
- ・清島温水プールの活用
- ・歯みがき指導(園医、保健所)

<年間計画の参考になる資料>①「学校における「食育」の推進」(平成20年度)②「台東区の幼稚園・小学校・中学校のつながりのある楽しい食育」(平成21年度)③「下町台東の美しい心づくり」(平成19年度) ③「こころざし高く 教師用指導書」(平成20年度)読み聞かせ資料編 364ページ ③「下町っこ みんなの約束」

→P.〇〇 は、関連する事例が掲載してあるページを示す

保育・教育の実践において重視する点(幼児期)  
 1 主体的な活動、協同的な遊び 2 見る、聞く、話す力の育成 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

環境・援助	保育・教育資料(例)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調を崩しやすい時期なので、健康に十分配慮し、休息、水分をしっかりとり等快適に過ごせるようにする</li> <li>・食事、休息、手洗い等を通して健康・安全の意味や大切さを知らせていく</li> <li>・汗をかいたり汚れたりした衣服の始末や汗の始末の方法を知らせていく</li> <li>・プール遊びでは一人一人の様子を十分把握し、楽しみながら遊ぶ中で、水に親むことができるように援助したり、一緒に遊んだりする</li> <li>・プール遊びでの約束が分かりやすいように、絵に描き表示しておく</li> <li>・プール遊びや水遊びに必要なことが分かり、毎日の繰り返しの中で、自分ですすんでできるように、一人一人に応じて援助していく</li> <li>・子供たちが流れや方法を理解して自分から動いていけるように、動線に配慮する、用具を分かりやすく置くなどを行う</li> <li>・水に慣れて危険なことをしたりしないように用具の使い方やまきをその都度伝えていく</li> <li>・9月当初は夏休みなど夏の生活の過ごし方が違うことに配慮し保育士・教員や友達との関係を取り戻しながら徐々に園生活のリズムに適應できるようにしていく</li> <li>・友達と遊ぶ中で、一人一人が様々なイメージを出していけるように、子供一人一人のイメージを保育士・教員が膨らませたり、認めたりしていく</li> <li>・保育士・教員が子供一人一人の動きやイメージを言葉にしていけることで、互いの動きや言葉を意識し合えるようにする</li> <li>・一緒に遊びたい友達とかかわれるように、場作りのための遊具や用具、友達と同じものを身に付けたり持ったりできる材料(簡単に自分で作れるもの)を用意していく</li> <li>・クラスのみなどと一緒に過ごすことが楽しいと感じられるような活動を工夫して取り入れていく</li> <li>・友達とのぶつかり合いの中で十分に思いを出させ、互いの思いが満足できるような方法を一緒に考え、友達との遊びを楽しめるように援助していく</li> </ul>	<p>《水の感触や解放感を味わえるように》          色水遊び シャボン玉 フィンガーペインティング スライム          洗濯ごっこ プール遊び          歌「しゃぼんだま」</p> <p>《音楽に合わせて踊ったり、体を動かして遊ぶことを楽しめるように》          「タタロチカ」「地球はドンドン」「にんじゃでござる」          島鬼 ひも取り鬼</p> <p>《相手の歌や声に耳を傾け、交互唱を楽しめるように》          歌「やまびごっこ」</p> <p>《友達と同じものを持ったり身に付けたりできるように》          ヒーローごっこ お姫様ごっこ にんじゃごっこ          警察ごっこ          リボン お面バンド ままごとのスカート エプロン など</p> <p>《クラスのみなどと過ごすことが楽しいと感じられるように》          あぶくたつた 引越し鬼 フルーツバスケット</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりのイメージを出したり実現したりできるように、イメージに適した素材や材料、用具等を遊びの流れに応じて、提示していく(イメージに合った曲、学級で遊んだ踊り、体操のカセットテープ等)</li> <li>・イメージを広げたり、遊びに取り入れられたりできるような絵本や歌等の環境を提示していく</li> <li>・砂や水を使った遊びに興味をもってかかわり、解放感を味わえるようにいろいろな遊びのできる素材や材料を用意する</li> <li>・やりたいことや興味のあることにかかわっている姿を認め、楽しさを共感したり、思いを実現していくための手立てを知らせたりする</li> <li>・興味をもって自分から様々な素材や材料に触れられるよう用意したり、一人一人の取組に応じて用具の使い方を知らせたりしていく</li> <li>・自分からかかわり、自分で作ることでできた満足感を味わえるような材料を用意したり、機会をつくらしたりする</li> <li>・夏野菜や夏の植物を育てることで自然の変化や生長に気付かせていく</li> <li>・季節の変化や動植物に対する発見、疑問、感動などを保育士・教員も子供と共感したり、表現したりして、より関心がもてるようにし、周囲の子供にも知らせていく</li> </ul>	<p>《イメージを広げ、遊びに取り入れられるように》          絵本「おおかみと七ひきのこやぎ」          「三ひきのやぎのがらがらどん」          「そらめくんのベッド」          リズム体操「だんごむし体操」「にんじゃでござる」          歌「うちゅうせんのうた」「あめふりくまのこ」          「そうだったらいいのにな」          「おばけなんてないさ」「とんでったバナナ」          「たなばた」</p> <p>《興味をもったことに繰り返し試し取り組めるように》          色水遊び 砂場遊び 船作り          粘土遊び(小麦粉粘土等)</p> <p>《様々な素材や材料に興味をもち自分からかかわれるように》          モール リボン 様々な大きさの紙 ストロー など          小麦粉粘土 フィンガーペインティング スタンピング</p> <p>《遊びの基礎となるような経験ができるように》          七夕飾り(はさみ ステープラー のり等) 空箱製作</p> <p>《身近な自然の変化や動植物の生長に気付けるように》          夏野菜の栽培(ミニトマト、ピーマン、ナス、キュウリ)          雨や風 水たまり しずく ダンゴムシ カタツムリ          ザリガニ アジサイ          歌「とんぼのめがね」</p>

**家庭との連携**

- ・保育参観や行事への参加、個人面談等を通して子供たちの成長を具体的に示すとともに、活動の意義について説明し理解を深めてもらうようにしましょう
- ・遊びや友達同士のかかわり方などで様々な変化が見られる時期なので、保護者が育ちの見通しをもてるように子供たちが相手とのかかわり方を学んでいることなどを知らせていきましょう
- ・子供が人とかかわりに悩むときには、家庭との連携をより密にし、ともに成長を支えていくようにしましょう

**地域との連携**

- ・夏の地域行事や家庭でも活用できそうな施設を保護者に紹介し、親子で地域に親しむ機会をもてるようにしていきましょう

②「幼児の規範意識を育む」(平成20年度)②「幼稚園・小学校の円滑な接続を目指して」(平成18年度)(平成21年度) ④「見つめ直そう 子供の体力」(平成21年度)

3歳児  
4歳児  
5歳児  
一年生

3 歳児

4 歳児

5 歳児

一年生

台東区の幼児教育がめざす子供の姿  ○健康やかな心と体をもち、きまりを守り行動できる子供 ○やさしさや思いやり、友達と協力して物事をやりとげようとする子供 ○自然や身近なことに関心をもち、自ら考え、豊かに表現する子供	3 つ の 柱	ねらい ○できる生活に必要ながりが分かります、自分で	内 容 ・手洗い、うがいの大切さが分かり自分から進んで行う ・必要に応じて衣服の調節を自分で行う ☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化 ・共同の遊具や用具を大切にし、みんなで譲り合って使ったり片付けたりする ・自分の身の回りの物の始末や片付けなどの仕方が分かりすすんで取り組む →P. 42 ・危険なものや危険な箇所を知り安全に気を付けて行動しようとする ・みんなと一緒にいろいろな動きを楽しみながら、体を思いきり動かして遊ぶ →P. 204 ・冬の寒さを肌で感じながら、戸外で思いきり体を動かして遊ぶ心地よさを感じる →運動・体力の基礎 ☆体力の向上④ ・食事が健康にとって大切であるということや清潔にするための大切さが分かる ☆食育①
		人のかかわり ○クラスの友達と一緒に楽しむ ・友達と一緒に遊びながら自分の思ったことやイメージを動きや言葉に出して表したり、友達の動きや言葉に気付いたりする ・自分の考えを出したり、友達の思いを受け入れたりしながら遊ぶ中で、気持ちが通じるうれしさを感じる ・みんなですること喜んで取り組み、みんなで声や動きを合わせたり、自分の力を十分にしたりして楽しむ ・一緒に遊びたい友達と遊ぶ中で、自分の思いを出したり、友達の気持ちに気付いたりする →P. 46 ・友達と楽しく過ごすためには守らなければならないことがあることに気付いていく ☆規範意識の芽生えの育成② ・異年齢児とのかかわりを深め思いやりやいたわりの気持ちをもつ ・行事を通して様々な人(職員、他の保護者、地域の方など)とかかわり親しみをもつ ・保育士・教員や友達と元気よくあいさつをする ☆こころざし教育③ 道徳の基礎	
		学 び ○味わった活動に自分なりの力を出して、楽しく ・5歳児や友達の姿に刺激を受け、自分でもやってみようとしたり、できることを喜んだりする ・戸外の自然に触れたり遊びの中に取り入れれたりしながら、季節の変化を感じる ・自然に触れ、見たこと、気付いたこと、感じたり思ったりしたことを言葉に表したり、遊びに取り入れれたりする ・落ち葉や木の実を集めたり、それを遊びに取り入れれたりする ☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化 ・自分なりの動きやイメージを出したり、イメージを広げたりしながら、クラスの人と一緒に様々な表現活動を楽しむ ・自分のイメージや、やりたいと思ったことを実現しようと、繰り返し取り組んだり、考えたり工夫したりする →P. 50 ・身近な材料を使って、自分なりに作ったり描いたりすることを楽しみ、できたもので遊んだり飾ったりする ・身近な用具の扱い方が分かり、目的に合わせていろいろな使い方があることを知る ・遊びに必要なものを考えて作ったり、遊びの場を構成したりしながら友達と大まかなイメージを共有して遊ぶ →表現活動の基礎 ・遊びや生活の中で、数や量、色、形、文字などに興味をもつ →文字・数量・図形の基礎 ・地域の文化や芸術に触れ、本物を知る経験を通して地域への興味・関心をもつ →P. 234 ☆地域財産等の活用	

保護者・地域との連携	連携のねらい ・運動会や生活発表会など行事での子供の姿を通して、成長を感じる ・2学期の子供の成長を喜ぶ
	地 域 ・子供の発達や育ちを知り、就学前教育や家庭教育の大切さを理解する ・地域行事等で子供たちとかかわり、親しみをもつ
	園 児 ・地域の方々と親しみをもつてかかわる

- 連携の例**
- ・お店屋さんごっこ
  - ・保育参加 個人面談
  - ・絵本の読み聞かせ
  - ・園だより、学年だより等の配布

- ☆**地域財産等の活用**
- ・西の市、羽子板市の見学 →P. 234

<年間計画の参考になる資料>①「学校における「食育」の推進」(平成20年度)②「台東区の幼稚園・小学校・中学校のつながりのある楽しい食育」(平成21年度)③「下町台東の美しい心づくり」(平成19年度) ③「こころざし高く 教師用指導書」(平成20年度)読み聞かせ資料編 364ページ ③「下町っこ みんなの約束」

→P.〇〇 は、関連する事例が掲載してあるページを示す

保育・教育の実践において重視する点(幼児期)  
 1 主体的な活動、協同的な遊び 2 見る、聞く、話す力の育成 3 計画的・柔軟性のある環境・援助

環境・援助	保育・教育資料(例)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い・うがい、食事のマナー、着替え等、一人一人の生活習慣を毎日の繰り返しの中で再確認していく</li> <li>・食べ物や体について関心をもてるような働き掛けをする</li> <li>・安全、休息、手洗い、うがい、薄着の習慣等、秋から冬の生活の仕方について、クラス全体に投げ掛けたり場面を捉えて個々に知らせたりしながら、必要感をもって自分でできるようにしていく</li> <li>・友達と一緒に戸外で体を動かしたり、思いきり走ったりする心地よさに共感し、一人一人の動きや思いを認めていく</li> <li>・リズムや体操等、みんなが興味をもって楽しく取り組めるような曲や内容を用意する</li> </ul>	<p>《いろいろな動きを楽しみながら体を思いきり動かして遊べるように》          助け鬼 かけっこ ボール運びゲーム          ひも取り鬼 ストップゲーム          ドンジャンケン(チームなし) ねことねずみ          氷鬼 高鬼 色鬼 縄跳び</p> <p>《いろいろな動きを楽しめるように》          リズム体操「げんきつき体操」「かえるの体操」</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会では、5歳児のやっていることに刺激を受けたり、今までの経験を思い出したりしながら自分たちもやりたいという気持ちをもてるようにする</li> <li>・気の合う友達、好きな友達と触れ合ったり遊んだりできるようなコーナーや場を確保できるように援助していく</li> <li>・さまざまな場面を通して、友達の中で、自分の思いを出していくことの大切さを知らせていくとともに、時には自分の気持ちを抑えることが必要であることにも気付かせていく</li> <li>・友達とのトラブルの場面では、それぞれの考えを受け止めて支えとなったり、仲立ちをしたりしながら、様々な感情を味わい、相手の気持ちにも気付いていく機会となるようにしていく</li> </ul>	<p>《自分たちの場を確保、保障できるように》          数か所に積み木の置き場をつくる          自分たちでも場をつくれるような囲いや衝立等</p> <p>《様々な友達とかかわることを楽しめるように》          ダンス「握手でこんにちは」「アルプス一万尺」          「ラウンドチェーン」「なべなべそこぬけ」          「おすしのピクニック」          歌「やきいもグーチャーパー」</p> <p>《友達と声がそろうことで一緒にする楽しさが感じられるように》          リズム体操「タタロチカ」「ヤンチャリカ」          「地球をドンドン」「かえるの体操」          歌「きのこ」「ドロップスのうた」「しょうじょう寺の狸ばやし」</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のイメージを自分なりに実現していく楽しさを感じられるように、一人一人のイメージに合った用具や材料の使い方を知らせたり、アイデアを提供したりしていく また、自分なりに考えたり工夫したりできるような提示の仕方を工夫していく</li> <li>・みんなと一緒に活動する中で、一人一人のイメージや楽しさを大事にしていく</li> <li>・互いの遊びのイメージが伝わっていくように、それぞれの言葉や動きをつぶやいたり、相手に分かるように言葉を補ったりして、仲立ちをしていく</li> <li>・イメージや思いが相手に伝わっていく楽しさに共感していく</li> <li>・共通のイメージをもったりイメージが広がったりする題材や、みんなで動きや声を合わせる楽しさを味わえたりする活動など、様々な表現を楽しめる内容を工夫する</li> <li>・飼育物や園庭、公園などの自然の様子に興味をもっている姿を認め、関心をもってかかわっていかれるようにする</li> <li>・保育士・教員がモデルとなって秋から冬の自然にかかわり、感じたことや気付いたことを言葉にして伝えたり、子供の思いに共感したりする(落ち葉や木の実、朝の空気の冷たさ、息の白さ、球根の生長等)</li> <li>・自然物を遊びに取り入れられるような環境の工夫をする</li> </ul>	<p>《身近な素材や材料を使って自分なりに作ったり描いたりできるように》          《表現の幅を広げていく楽しさを感じられるように》          動物作り 車作り どんぐりのタペストリー          落ち葉を使った絵 クリスマス製作 松ぼっくりのツリー          運動会の絵 運動会で身に付けるもの</p> <p>《共通のイメージをもったりイメージが広がったりするように》          レストランごっこ ヒーローごっこ ままごと          劇遊び 絵本「14ひきのせんたく」「どうぞのいす」          「そらいろのたね」</p> <p>イメージに合った曲          クラスで遊んだ踊りや体操の音楽を録音したカセットテープ等</p> <p>《花の名前を知り、生長を楽しみにできるように》          チューリップ スイセン ヒヤシンス クロッカス</p> <p>《秋の自然に親しみ、遊びに取り入れられるように》          身近な公園への散歩 どんぐりのタペストリー          どんぐりのネックレス どんぐりのマラカス          落ち葉を使った絵</p>

**家庭との連携**

- ・運動会や生活発表会など行事については、その教育的意義にふれ、勝ち負けやできばえだけでなく、楽しんでいることや自分なりに頑張っている姿を大事にするなど、行事において大切にしていることを伝え、共通理解を図りましょう
- ・運動会などの行事への保育参観や参加については、ともに子育てする喜びや保護者同士のつながりが感じられるような内容、方法を工夫しましょう
- ・個人面談では、日常生活や行事への取組、友達とのかかわりの中で変容した子供の姿を伝え、成長を喜び合うとともに課題も共有し、園と家庭が協力して子育てしていけるように話をしていきましょう

**地域との連携**

- ・運動会や生活発表会の招待状を地域の方々にお渡しし、当日は子供たちとかかわっていただいたり、園の教育についてお伝えしたりするなど、園行事を通して地域の方々とのつながりを深めていくようにしましょう
- ・秋の自然や地域行事を保育に取り入れ、子供たちが地域に親しむ気持ちをもてるようにしましょう。
- ・散歩や遠足などで地域の施設を効果的に活用しましょう

②「幼児の規範意識を育む」(平成20年度)②「幼稚園・小学校の円滑な接続を目指して」(平成18年度)  
 (平成21年度) ④「見つめ直そう 子供の体力」(平成21年度)

3歳児  
 4歳児  
 5歳児  
 一年生

## 4 歳児年間指導計画 1 月～3 月

3 歳児

4 歳児

5 歳児

1 年生

台東区の幼児教育がめざす子供の姿  ○健康やかな心と体をもち、きまりを守り行動できる子供 ○やさしさや思いやりの心をもち、友達と協力して物事をやりとげようとする子供 ○自然や身近なことに関心をもち、自ら考え、豊かに表現する子供	3 つ の 柱	ねらい	生活 <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活に必要ながらいふことが分かる、自分</li> <li>・自分でできることは自分でする</li> <li>・手洗い、うがいの大切さが分かり、自分から進んで行く</li> <li>・冬の生活に応じた生活の仕方を自分なりに考えて行く</li> <li style="text-align: center;">☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化</li> <li>・共同の遊具や用具を大切にし、みんなで譲り合って使ったり片付けたりする</li> <li>・5歳児がしていた当番の仕事のやり方を教えてもらい、保育士・教員と一緒にやってみようとする</li> <li>・危険な場所、遊び方、災害時などの安全に気を付けて行動する</li> </ul>
		人とのかかわり	生活 <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と遊ぶ中で、自分の思いや考えを伝える</li> <li>・クラスの人と一緒に活動する中で、満足感を感じたり、クラスとしてのつながりを感じたりする</li> <li>・友達と、自分のイメージや考えを伝え合ったり、友達の動きや言葉に応じたりしながら遊ぶ楽しさを感じる</li> <li>・一緒に遊ぶ友達と、場や必要なものをつくり、自分たちで簡単な遊びの流れをつくりながら遊びを進めていく楽しさを感じる</li> <li>・友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながら、やり遂げようとする</li> </ul>
		学び	生活 <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分なりの目的に向けて遊んで考えて楽しむ工夫</li> <li>・クラスの人と一緒に活動する中で、自分の力を十分に発揮したり、みんなと気持ちを合わせて歌ったり踊ったりする楽しさを感じる</li> <li>・自分なりの目的に向けて、繰り返し取り組んだり、必要な材料を選んだり、方法を考えたり工夫したりしてやりとげようとし、実現できた喜びを感じる</li> <li>・遊びに必要なものを工夫して描いたり作ったりし、それらを使って友達と遊ぶ</li> <li>・絵本やお話などのストーリーに沿って、自分のイメージを動きや言葉で表現して遊ぶ</li> </ul>

### 保護者・地域との連携

連携のねらい	
保護者	・3学期の教育方針や教育活動について理解する ・1年間の子供の成長を喜び合う ・進級に向けて、家庭で配慮することを知る ・子供と共に進級への期待をもつ
地域	・子供の発達や育ちを知り、就学前教育や家庭教育の大切さを理解する ・地域行事等で子供たちとかかわり、親しみをもつ
園児	・地域の方々との親しみをもつてかかわる

連携の例	
・保育参加、学級懇談会 ・親子で取り組む活動 ・学年末保護者会 ・園だより、学年だより等の配布	→P.54

☆地域財産等の活用	
・地域の図書館の利用 ・高齢者との交流 (特別擁護老人ホームや老人保健施設等の活用)	

<年間計画の参考になる資料>①「学校における「食育」の推進」(平成20年度) ②「台東区の幼稚園・小学校・中学校のつながりのある楽しい食育」(平成21年度) ③「下町台東の美しい心づくり」(平成19年度) ④「こころざし高く 教師用指導書」(平成20年度)読み聞かせ資料編 364ページ ⑤「下町っこ みんなの約束」



環境・援助	保育・教育資料(例)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でしようとする姿、自分なりにやっているところを十分に認めていく</li> <li>・生活習慣が身に付いているか、自分できちんとできているか確認しながら一人一人に応じて、身の回りの始末、衣服の着脱、うがい、手洗い、食事のマナー等を指導していく</li> <li>・戸外で行う遊びを取り入れるなど、積極的に戸外に出るようにさせ、体で寒さや暖かさを感じられるようにしていく</li> <li>・進級に向けて自分たちで生活を進めていくようにする</li> <li>・5歳児の生活の仕方を聞いたり、当番活動の引継ぎの機会を設けたりして、5歳児になることへの期待をもたせていく</li> <li>・当番活動については無理のないように、保育士・教員と一緒にできるところから取り組んでいく</li> <li>・異年齢児とのかかわりの中で自分たちのしていることを見せたり、一緒に遊んだりして、小さい子供たちへの関心を高めしていく</li> <li>・もうすぐ5歳児になるという期待を十分に受け止め、そのことが、自分で何にでも取り組んでいこうとする意欲につながっていくように援助する</li> <li>・1年間を思い返したり、楽しかったことを再現したりしながらみんなで成長を喜ぶとともに、5歳児になるということに期待をもてるようにする</li> <li>・一人一人が自分のイメージや思いを出したり伝えたりできるよう、また互いのイメージや思いを受け止めて遊びが進められるよう、仲立ちしていく</li> <li>・友達と気持ちが通じるうれしさや、つながりを感じている姿、一緒に遊ぶ楽しさを十分に共感していく</li> <li>・友達と思いが通じなかったり、遊びが停滞したときには、仲間に入ったり、他の遊びの様子を知らせたりするなど、場に応じて援助する</li> <li>・自分から目的を見つけて取り組む姿を十分に認めたり、励ましたりしていく</li> <li>・目的を見つけにくい子供には、周りの子供の様子を知らせて刺激にしたり、興味のもとそんな活動に誘ったりしながら、自分なりの目的を見つけられるように援助する</li> <li>・興味のあることを追求したり、イメージを実現したりできるよう、用具や材料を用意したり、よりよい方法を知らせたりしていく</li> <li>・イメージを膨らませたり、友達と楽しさを共感したりできるような絵本や童話、音楽などを用意する</li> <li>・友達と大まかな遊びのイメージを共有したり、イメージや思いを伝え合ったりして、自分たちで遊びを進めていくための時間と場、遊具などを十分に保障していく</li> <li>・様々な場面で一人一人のよさや取り組みを認め、他の子供に伝えることで、クラスの中で、一人一人が自信をもてるようにする</li> <li>・冬から春の様々な自然に気付くよう声を掛けていく。また、子供の驚きや発見に共感していく(風や氷の冷たさ、寒さに負けない植物の様子、木々や草の芽吹き、風の暖かさなど)</li> </ul>	<p>《寒さを感じながら体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるように》                  凧あげ サッカー 縄跳び 助け鬼 ひも取り鬼                  石蹴り 氷鬼</p> <p>《自分なりのめあてをもって体を動かして遊べるように》                  縄跳び フープ遊び 鉄棒 巧技台 ボール遊び</p> <p>《異年齢児とのかかわりや行事への参加を通して5歳児になる期待がもてるように》                  当番活動の引継ぎ 交流昼食 お別れ会                  修了・卒園のプレゼント製作 5歳児のごっこ遊びに参加                  来年度入園予定児へのプレゼント作り                  修了お祝い会、修了式、卒園式への参加</p> <p>《簡単なルールを作り友達と遊びを進めていけるように》                  助け鬼 ひも取り鬼 中あて</p> <p>《友達と一緒に、イメージを広げながら遊ぶ楽しさを感じられるように》                  おうちごっこ お店ごっこ スキーごっこ スケートごっこ</p> <p>《イメージを実現する楽しさを味わいながら自分の力を発揮するように》                  鬼のお面作り ひな人形作り</p> <p>《イメージを膨らませたり、友達と楽しさを共感したりできるように》                  絵本「三匹やぎのがらがらどん」「おまえ うまそうだな」                  「ぐるんぱのようちえん」「すてきな三にんぐみ」                  「きよだいなぎよだいな」「はじめてのおつかい」                  「しょうぼうじどうしゃじふた」「だいくとおにろく」                  「どろんこハリー」                  歌「たのしいね」「にんげんっていいな」「鬼のパンツ」</p> <p>《大まかな遊びのイメージが共有し遊びを進めていけるように》                  ゲームボックス 巧技台                  段ボールで作った衝立等の大型遊具</p> <p>《植物の成長を楽しみにできるように》                  ヒヤシンス チューリップ スイセン</p> <p>《文字や数量、図形に興味をもてるように》                  すごろく トランプ</p>

**家庭との連携**

- ・子供たちの進級に向けての活動の様子(お別れ会、新入園児とのかかわり、修了式などへの取組など)を伝え、子供の成長を共に喜び合い、保護者も一緒に進級に期待をもてるようにしていきましょう
- ・いろいろなことが一人でできるようになる一方で時には甘えたい気持ちも出てきますので、子供の話に耳を傾けたり手助けをしたりして温かく受け止めていくことが大切だと伝えましょう
- ・歳末、お正月など、この時期ならではの社会事象や自然事象に興味をもてるように家庭でも配慮していけるように伝えましょう

**地域との連携**

- ・もちつきや豆まきなど地域の行事の情報を伝えましょう。できれば親子で参加できるとよいことも付け加えましょう
- ・地域の人への親しみが増すように、修了式など園行事で、保育士・教員が地域の方とあいさつする姿を見たり、一緒にあいさつしたりする機会をつくりましょう

②「幼児の規範意識を育む」(平成20年度)②「幼稚園・小学校の円滑な接続を目指して」(平成18年度)  
 (平成21年度) ④「見つめ直そう 子供の体力」(平成21年度)

# 4歳児 実践で活用できる事例

3歳児

4歳児

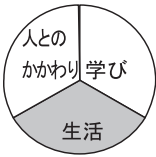
5歳児

一年生

生活

人のかかわり

学び



## 3つの柱 生活 (例)

「新しい保育室で遊ぶのはうれしいな」(生活への取組) 4歳児 4月

### 《ねらい》

- できることは自分なりにしてみる。
- 所持品の置き場所や始末の仕方、いろいろな遊具・用具の置き場所や使い方、片付け方が分かり、自分でしようとする。

### ◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

### 《経験させたい内容》

- ◎新しいクラスでの生活の仕方を知る。
- ◎進級した喜びを感じ、自分でできることは自分でしようとする。

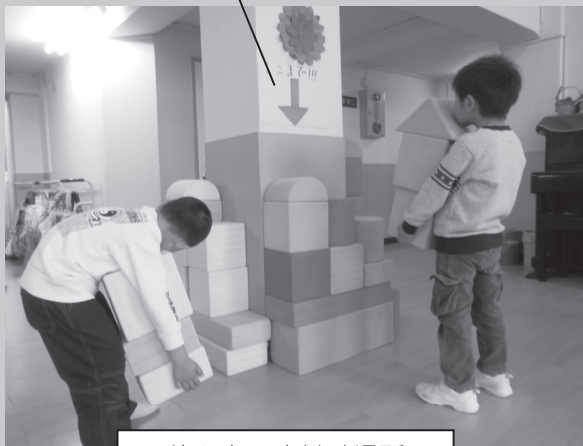
### 《活動の概要》

- ・新しい環境に喜びを感じながら、所持品の始末を自分で行う。
- ・進級に喜びをもち、新しい遊具への興味をもつとともに、片付け方は、一緒に確認し合いながら行っていく。

### 《環境》(遊戯室または園庭・校庭)

- ・個人の所持品の置き場所の表示は、発達や実態に応じて配慮する。たとえば、3歳児では大きめの個人用マークと名前、4歳児ではやや小さめの個人用マークと名前、5歳児では名前のみにする。

積み木を片付ける高さに印を付けておく。



積み木の片付け場所



所持品を始末する場所

安心して生活できるように、所持品の置き場所等にシールや絵、文字等で示しておく。

## 《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>【新しい遊具の使い方、片付け方を知る】</p> <p>②4歳児になり環境が変わったことに気が付き、友達同士で話したり、保育者に話しかけたりする。</p> <p>④新しい積み木を見つけ、「あ、これ新しい積み木だ！大きいね。」「いろんな色があるね。」と喜ぶ。</p> <p>⑥新しい積み木が使える喜びから「大事に使うね。」「もう〇〇組さんになって大きくなったから使えるんだね。」等と言う。</p> <p>⑦新しい積み木で「おうち」や「基地」などを作って遊ぶ。</p> <p>⑨「同じ色の積み木を集めて片付けるときれいになる。」と言う。</p> <p>⑪柱の色分けの線に気が付き、「先生、あの柱に線があるよ。あの線までにしよう。」「高くすると(積み木が)落ちたらぶつかって頭、痛いよ。」と言う。</p> <p>⑬子ども同士で色を確認しながら片付ける。</p>	<p>①積み木を片付ける高さに印を付けておく。</p> <p>③子どもが新しい環境を探索する姿を見守り、<u>うれしい気持ち、ワクワクした気持ちに共感していく。</u></p> <p>⑤3歳児のとき使っていた積み木を思い出させながら、<u>進級したからこそ使えることを伝え、進級した喜びにつながるようにする。</u></p> <p>⑧片付けを知らせる。 <u>「どうやって片付けようか。」</u>と言う。どのように片付けたらよいか問いかけることで、子どもが考え発言しているよう促す。</p> <p>⑩子どもに積み木を積む高さについて考えさせるために「同じ色の積み木を一番高いところまで積み上げて片付けようか。」と言う。</p> <p>⑫子どもの考えを認め、<u>安全面について確認し、すすんで片付けられるようにする。</u></p> <p>⑭きれいに片付けた心地よさに共感する。</p>
<p>【所持品の始末】</p> <p>②登園し、自分の持ち物を決められた場所に置く。</p> <p>④「あった！」「ここだよ。」と答え、かばんを自分で置く。</p> <p>⑤自分の場所を自分で見つけ喜んだり、友達に場所を教えたりする。</p>	<p>①ロッカーや靴箱等にシールや名前を掲示し、<u>分かりやすくしておく。</u></p> <p>③新入園児には、「<u>〇〇のシールはどこだろうね？一緒に探してみようか。</u>」等、声掛けをする。</p> <p>⑥進級児には、<u>自分で自分の場所を探す姿や友達同士伝え合う姿を見守り、自分でできるようにしていく。</u></p> <p>⑦ロッカーや引き出しの中など子どもが自分で整理しやすいよう、<u>表示やしきり(箱の活用)等を工夫し、毎日の生活の中で、繰り返し指導していく。</u></p>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

生活

人のかかわり

学び

### 3つの柱

## 生活

### ◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 進級したうれしさに共感し、自分でやろうとする気持ちを高め、子どもが自分でできるような環境をつくる。所持品を始末する場所等の分かりやすい表示や個人のロッカーや引き出しを自分で整理しやすいような工夫等を行う。
- 新しい遊具の使い方や片付け方についてはクラス全体で確認するとともに、毎日の生活の中で繰り返し、身に付けていくようにする。友達同士で確認し合う姿を認めていく。

### ◆小学校につながる点

- 身の回りの始末や最後まで片付けることを繰り返すことは、自立を促し、自分で生活を進めることにつながっていく。



# 3つの柱 生活 (例)

「身の回りをきれいにしましょう」(掃除)

4歳児 12月

## 《ねらい》

○自分の身の回りの物の始末や片付けなどの仕方が分かり、すすんで取り組む。

### ◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

## 《経験させたい内容》

- ◎雑巾をしぼり、拭きそうじをする。
- ◎室内や屋外のほうきの扱い方に慣れる。
- ◎身近な生活場所をきれいにすると気持ちのよいことを体験する。

## 《活動の概要》

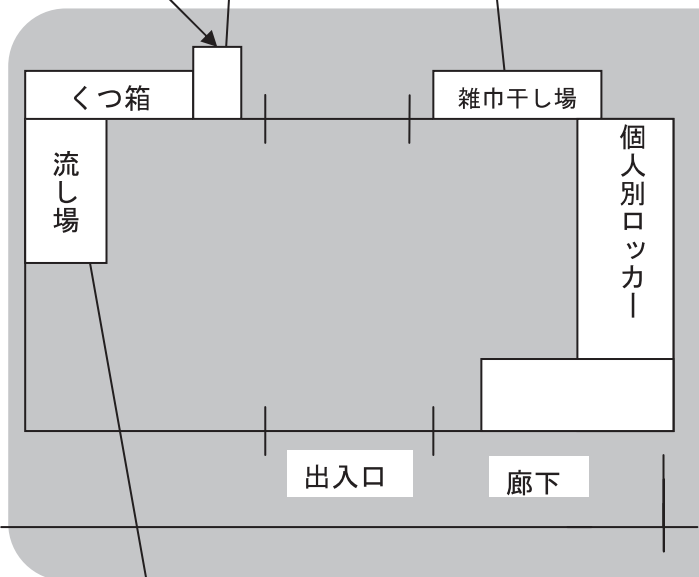
- ・年末の園内清掃をクラス全体で行う。きれいにするところをみんなで話し合い、どのような用具が必要か考える。
- ・各自1枚ずつ雑巾を持ち、保育者の援助を受けながら雑巾をしぼる。
- ・雑巾を使って自分のロッカーを拭く。雑巾が汚れたら洗う。
- ・保育室や室内をほうきで掃く。実態に応じて園庭の落ち葉など一部分をほうきで掃く。
- ・園内がきれいになり、気持ちよさを感じ、自分たちできれいにしたことを喜ぶ。

## 《環境》(園庭)

子どもの手に扱いやすい大きさの雑巾やほうきを用意しておく。

子どもたちが自分で干せるように設定しておく。

ほうき置場



気候により、お湯を用意する。



雑巾は両手でぎゅっとしぼります



難しい園庭ほうきも使っています



ロッカーの掃除

## 《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>③掃除する所をみんなで話し合い、どんな用具が必要か考える。</p> <p>④ロッカー内を整理し、雑巾がけをする。 雑巾を絞ったまま広げずに拭く。 何度も同じところを拭く。 「ここもきれいにする！」と床拭きをする。 引き出しの中のもので遊んでしまう幼児がいる。 雑巾を洗うことに興味を持ち、何度も洗い場に行く。</p> <p>⑧雑巾がけが終わったら雑巾を洗って干す。</p> <p>⑩室内ほうきを使って保育室を掃く。 ほうきがうまく扱えない。 掃き寄せることができない。 「うちでやったことがある！」とはりきって参加する。</p> <p>⑭自分たちできれいにしたことを喜ぶ。</p>	<p>①子どもの人数分の雑巾を用意しておく。</p> <p>②年末にあたり園内をきれいにしてお正月を迎えようと話し、どこをきれいにすればよいか問い掛ける。</p> <p>⑤「ここが汚れてるね。」など気付かせる言葉を掛けたり、実際に拭いて見せたりして、<u>自分でやってみようとする気持ちを高めていく。</u></p> <p>⑥雑巾しぼりは子どもの状況にあわせ、<u>保育者が手を添えて手の使い方や力の入れ方など援助する。</u>「バナナの(の形)にしてギュッと力を入れてねじるのよ。」などと子どもに分かりやすい言葉で伝えていく。また、<u>興味に応じ繰り返し行い、「きれいになった。」「上手にできた。」等、子どもの満足感を受け止めていくようにする。</u></p> <p>⑦<u>それぞれの子どもの動きに合わせて「もう少しここを拭くとピカピカになるかしらね。」「きれいになったね。」などと話し、意欲的に取り組めるよう働き掛ける。</u></p> <p>⑨雑巾の始末の仕方、干し方を知らせる。</p> <p>⑪ほうきの持ち方、はき方を知らせ、友達と交代で使うなど<u>配慮する。</u>ごみなどが集まってきたことを喜ぶ気持ちを大切にしながら子どもにかかわっていく。できないところは手を貸すが、自分で掃けたという思いがもてるように援助をしていく。</p> <p>⑫子どもの実態に応じ、園庭の落ち葉など一部分をほうきで掃くようにする。</p> <p>⑬<u>きれいになったことを実感させ、気持ちがよいことをみんな</u>で喜ぶ。</p>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

生活

人のかかわり

学び

3つの柱

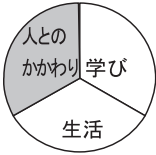
生活

### ◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 自分のことは自分でしようという気持ちを大切にし、用具の使い方を丁寧に分かりやすく伝えていく。
- 雑巾やほうきの扱い方や、縄跳びの片付け方(たたんで結ぶ)など生活に必要な技術は、毎日の生活の中で繰り返し経験することで、身に付けられるようにしていく。

### ◆小学校につながる点

- 生活に必要な技術を身に付け、自分の身の回りの始末や片づけを自分で行うことは、自分の生活を自分で進めることにつながる。



## 3つの柱

## 人のかかわり (例)

「トンネルがつながったよ」(砂場遊び)

4歳児 5月

## 《ねらい》

- 友達の動きを気にとめながら、自分なりの遊びを楽しむ。
- 遊びたい友達と同じ場で遊んだり、同じものを身に付けたりしてかかわりながら動くことを楽しむ。

## ◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

## 《経験させたい内容》

- ◎ 友達と同じ場で過ごしながら、自分の思いを出し、部分的につながる楽しさを感じる。

## 《活動の概要》

## 【事前】

- ・ 3歳の時から砂場で遊んだ経験がある。
- ・ 自分のやったことを保育者に認めてもらう嬉しさを感じる経験をしている。
- ・ 友達と一緒にいるとなんとなく楽しいという気持ちを感じている。

## 【当日】

- ・ 友達と一緒に砂場で山を作る。
- ・ それぞれが山に穴を掘り、友達と掘ったトンネルがつながる。

## 【事後】

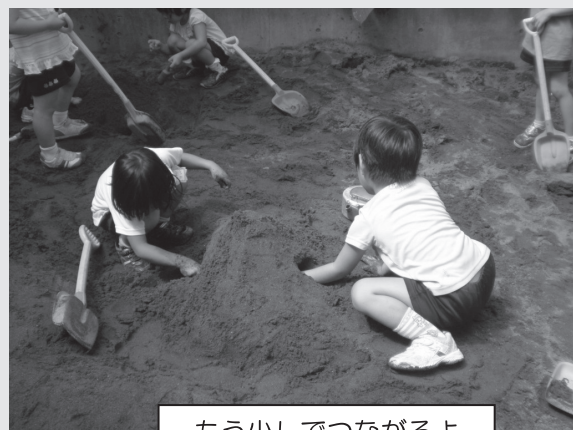
- ・ トンネルがつながった子どもとかわる機会が増える。

## 《環境》(園庭・校庭)

- ・ 4歳児クラスになり、保育室が砂場の近くになり、行き来しやすくなった。
- ・ 4歳児クラスになって新しく使えるようになった遊具を用意する。(大型シャベルなど)



トンネルづくりの様子



もう少しでつながるよ

## 《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>①A児とB児が砂場に山があるのを見つけてシャベルで山に砂をかけている。</p> <p>②A児はB児に「〇〇タワーよりも高くしよう。」と言う。2人で大型シャベルを持ってくる。B児は「Bちゃんがやれば大丈夫。」と保育者に話す。2人で山に大型シャベルで砂をかけ始める。</p> <p>④山が大きくなってくる。</p> <p>⑥保育者の言葉に2人はうれしそうに表情をする。</p> <p>⑦A児が大型シャベルで山盛りの砂をすくって運んでいる。</p> <p>⑨A児はニコツとし、また砂を山にかける。A児の様子を見たB児も「ぼくもこんなに運べるよ。」と保育者にシャベルですくって見せる。</p> <p>⑩A児がB児に「もっと高くしよう。」と言う。B児は「そうしよう。」と言い二人はたくさんの砂を運び始める。</p> <p>⑫しばらくしてA児はB児にだまって穴(トンネル)を掘り始める。B児はシャベルを取りに行き、砂場に戻りA児に「まだ穴を掘らないでね。」と言う。A児は驚いてB児を見る。B児はその様子を見て「掘っていいよ。」と話す。</p> <p>⑭B児もA児の反対側から穴を掘り始める。「もうすぐつながるよ。」とB児が言う。</p> <p>⑯二人の手がトンネルの中でつながる。B児が「つながった！」と言うとA児も「つながった。」と顔を見合わせて言う。保育者に「つながった。」と言う。</p> <p>⑰保育者の言葉を聞き、B児は「やった。」と言いながら何度もジャンプをする。</p>	<p>③保育者に伝えたい気持ちを受け止め、A児とB児が<u>同じ場で山を作ろうとしていることを意識できるように「Bちゃんも一緒に山、作るんだ。Aちゃん、よかったね。」と話す。</u></p> <p>⑤A児とB児が一緒に山を作っている楽しさ、うれしさを感じられるように「<u>山が大きくなったね。2人で作ったんだ。」と認める。</u></p> <p>⑧「すごいね。Aちゃんはそんなにたくさん運べるんだね。」と言う。</p> <p>⑩「すごいね。Bちゃん力持ちだね。」と言う。 <u>A児、B児それぞれの動きを認めながら、2人で作るうれしさを感じられるようにする。</u> <u>2人のイメージが部分的につながるよう、「〇〇タワーより高い、大きな山になるね。」と話す。</u></p> <p>⑬B児のいない間にA児が穴を掘っていたことについて、B児が受け入れたことを認める。</p> <p>⑮「<u>AちゃんもBちゃんもトンネル掘っているんだね。」と二人で同じことをしているという気持ちを高める。</u> 穴がつながることへの意欲が感じられるように「<u>つながるのが)楽しみだね。」と話す。</u></p> <p>⑰保育者に認めてほしいという気持ちを受け止め、<u>「つながったね。」A児とB児の穴がつながったうれしさに共感する。</u></p>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

生活

人とのかかわり

学び

3つの柱

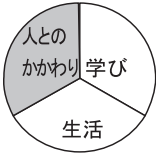
## 人とのかかわり

### ◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- この時期の子どもは、日頃からかかわりのある友達と一緒に遊ぶことが心地よいと感じていることを踏まえ、保育者はそれぞれの動きを認めたり、共感したりしながら必要に応じて言葉を足したり、イメージをつなげたりしながら友達とつながっていると感じられるように言葉やものの提示をしていく。
- 人とのかかわりは、保育者とのつながりを基盤に友達へと広がっていくため、この時期は、保育者とのかかわりも大切にしていく。

### ◆小学校につながる点

- 友達と一緒に遊ぶと楽しい、うれしいという気持ちが人とのかかわりの芽生えにつながる。



## 3つの柱

## 人のかかわり (例)

「一緒に遊びたいけれど」(魔法使いごっこ)

4歳児 12月

## 《ねらい》

○一緒に遊びたい友達と遊ぶ中で、自分の思いを出したり、友達の気持ちに気付いたりする。

## ◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

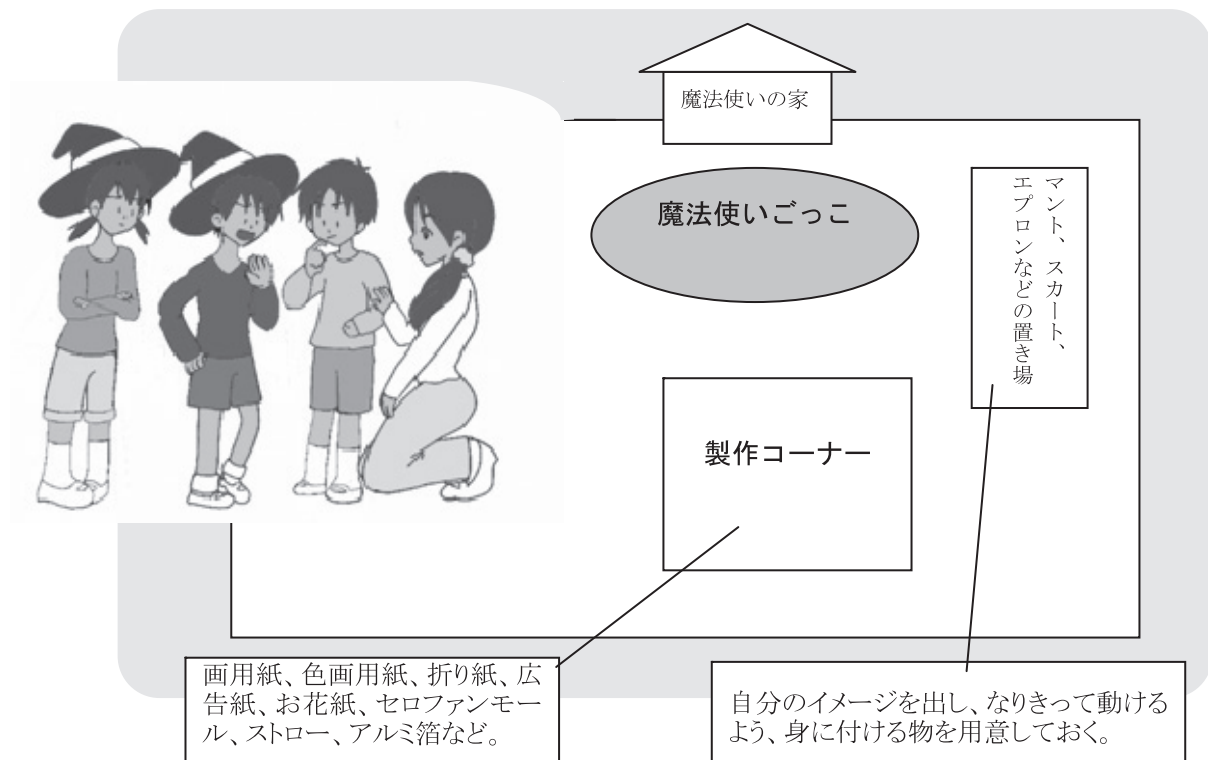
## 《経験させたい内容》

- ◎様々な感情体験をする中で、自分とは違う友達の気持ちに気付く。
- ◎相手に対して、自分の思いを動きや言葉で表す。

## 《活動の概要》

- ・ 2、3人の友達と一緒に遊ぶことが楽しくなってきた時期である。
- ・ A児とB児が「魔法使い」のイメージをもち、それぞれのイメージを出しながら「魔法使いの家」や「魔法使いの帽子」や「魔法の杖」など遊びに必要なものを作り、「魔法使いごっこ」をして遊んでいる。
- ・ C児が仲間に入る。C児は「魔法使いごっこ」への思いやイメージが強くないが、A児、B児と一緒に遊びたい。
- ・ 犬役になりたいC児と、「魔法使い」のイメージで遊びたいA児、B児とでもめている。
- ・ 保育者の援助を受けながら話し合い、C児は一緒に遊びたいイメージを伝え、魔法使いになる。3人は、「ろうそく」や「こうもり」などを作り「魔法使いごっこ」を楽しむ。

## 《環境》(保育室)





## 《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>①「魔法使いごっこ」を始めたA児とB児。C児も仲間になるが役のことでもめている。C児が保育者のところに「犬(になるの)はだめなんだって。」と訴えに来る。</p> <p>③C児が「なんで犬(になるの)はだめなの？」と聞くと、A児は「だって犬は、はいはいするから嫌なの。」と言う。</p> <p>⑤A児は小さな声で「はいはいすると赤ちゃんみたい。」と話す。B児も同調する。3人とも困った顔になる。</p> <p>⑦C児は「犬がいい。」と言う。</p> <p>⑨A児、B児は「うん！」とうなずく。 C児は「Aちゃん、Bちゃんと一緒に遊びたいのにな・・・」とつぶやく。</p> <p>⑪A児、B児「魔法犬、それなら、いいよねえ。」と新しいイメージに賛成する。しかしC児は、「犬じゃなくていい。」と言う。</p> <p>⑬C児「それならいい。魔法使いになる。」と言い、マントの場所に取りに行く。</p> <p>⑭C児がマントをつけて戻ると、B児は「ワー、かっこいい！」と言う。その後3人は、「暗いからろうそくをつける。」と話しながら、ろうそくを作ったり、ごぎを屋根にした暗い部屋を作ったりして「魔法使いごっこ」が続く。</p>	<p>②「Cちゃんが2人に話があるって。Cちゃん言ってごらん。」と促し、3人で<u>話し合えるようにする。</u></p> <p>④「<u>なんではいはいはだめなの？</u>」とA児の<u>思いをさらに引き出す声掛けをする。</u></p> <p>⑥「<u>どうする？2人は赤ちゃんみたいだからだめだって言っているけど、やっぱり犬がいいのかな？</u>」とC児に言う。<u>C児の気持ちを確かめながら、話し合いを進める。</u></p> <p>⑧A児、B児の様子から、犬役は嫌だという理由は違うところにあると思い、「もしかして、魔法使いごっこだから犬はだめだって思っているの？」とA児、B児に聞き、<u>3人で一緒に遊ぶための解決策を見つけるきっかけをつくる。</u></p> <p>⑩C児の一緒に遊びたいという思いを受け止め、「魔法使いが飼っている犬になるっていう方法もあるよね。魔法の使える犬、魔法犬になるのはどうかな？」と<u>3人の遊びのイメージに合うような役を提案する。</u></p> <p>⑫C児は、先ほどの「犬は嫌だ。」というA児の言葉を受け止めているととらえ、「それなら魔法使いになる？魔法使いがつけるかっこいいマントもあるよ。」とC児が興味をもちそうなマントがあることを示す。</p> <p>⑮「よかったね、みんな魔法使いなんだね。魔法使いさんのおうち、すてきになりそう。」と3人で<u>遊べるようになったうれしさを感じられるような声を掛けたり、遊びへの意欲を高めたりする。</u></p>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

生活

人とのかかわり

学び

3つの柱

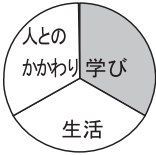
## 人とのかかわり

### ◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 自分の思いを相手に出せるように促したり、言葉を足したりするなどの援助をすることで、思いが相手に伝わるうれしさを感じられるようにする。また、相手の話が聞けるようにすることで、自分とは違う思いがあることに気付けるようにする。
- 自分の思いを出し、友達の思いに気付くことで、遊びが楽しく進んでいくことを感じたり、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わったりできるようにする。

### ◆小学校につながる点

- 自分の思いを出し、相手の思いに気付いていくことで楽しく遊べたという経験を積み重ねることが、自分の気持ちを調整し友達と考えを出し合って物事を進めていくことにつながる。



## 3つの柱

## 学 び (例)

「ダンゴムシはかわいいね」(ダンゴムシ捕り)

4歳児 5月

## 《ねらい》

○春の自然に触れる心地よさを感じたり、身近な動植物に親しみをもったりする。

## ◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

## 《経験させたい内容》

- ◎虫を見つけたり捕まえたりする楽しさを味わう。
- ◎虫と遊んだり観察したりして、形や動き等に興味をもつ。
- ◎虫を飼育することで、虫へのいたわりの気持ちをもつ。

## 《活動の概要》

- ・ダンゴムシの様子(丸まる、足がたくさんある等)に気付き、興味・関心をもつ。
- ・園庭で見つけたダンゴムシを子どもが「飼いたい。」と言い、飼い方を調べ始める。
- ・飼育の仕方が分かり、友達と一緒に観察ケースに環境を作る
- ・ダンゴムシを探し始めると、その様子を見た他児も関心を持ち、ダンゴムシ探しが広がる。
- ・見つけたダンゴムシを観察ケースに入れていく。
- ・毎日、霧吹きで水をかけるなど世話をし、様子を見るうちに疑問が生まれる。
- ・疑問に思ったことを聞いたり、友達や保育者とその都度、図鑑などで調べたりする。
- ・虫が苦手だった子どもも関心が高まり、触れるようになる。

## 《環 境》(保育室)

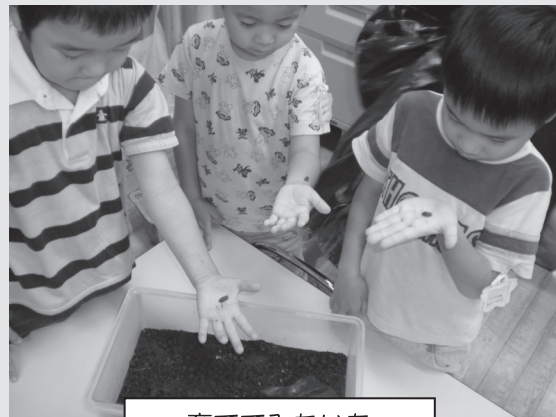
- ・観察ケースを準備しておく
- ・図鑑や「ダンゴムシ」「ぼく、だんごむし」「だんごむしのコロちゃん」などの絵本を子どもたちが取り出しやすいところに用意する。
- ・ダンゴムシを観察しやすいように低めのテーブルに観察ケースを置く。
- ・子どもたちが調べた餌や水分を補うための霧吹きを観察ケースのそばに置く。
- ・ダンゴムシを見つける時に他の虫にも興味をもつよう、図鑑などを保育室の見やすいところに置く。

## ※参考

「ダンゴムシ」(アリス館) 作:今森光彦 写真:今森光彦  
 「ぼく、だんごむし」(福音館書店) 文:得田之久 絵:たかはしきよし  
 「だんごむしのころちゃん」(童心社) 作:高家博成 絵:仲川道子



ダンゴムシ探し



育ててみたいな

## 《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>①園庭で見つけたダンゴムシを保育者に見せる。「すごく元気ですよ。」「(丸くなったのを見て)まん丸だ。」等話す。まわりの子どもも一緒に見たり、自分で捕まえたダンゴムシを見せたりする。</p> <p>③「(ダンゴムシを)飼いたい。」と言う。</p> <p>⑤ダンゴムシについて図鑑で調べ始める。写真や絵を見たり、保育者の読む説明文を聞いたりする。</p> <p>⑦飼育に必要な物が分かり、用意を始める。</p> <p>⑨園庭の様々なところから、土、石、小枝などを見つけ、友達と相談しながら観察ケースに入れる。バケツをもちダンゴムシを探し始める。</p> <p>⑪プランター、土壌、石などを動かし、ダンゴムシを探し始める。</p> <p>⑬他の遊びをしていた子どももダンゴムシ探しに関心をもち参加する。</p> <p>⑭「これは大きいからお父さんだね。」「小さいのは赤ちゃんだから、お母さんと一緒にいれてあげよう。」などと話す。</p> <p>⑯ダンゴムシ以外の生き物に関心を持つ子どももいる。</p> <p>⑰捕ったダンゴムシをみんなで観察ケースに入れていく。「たくさんいるよ。」「すごいね。」とうれしそうに話す。</p>	<p>②子どもの気持ちに共感し、「あっ、丸くなったよ。」などとダンゴムシの様子や動きを一緒に楽しむ。「かわいいねえ。」と大切にやさしくかかわる。</p> <p>④<u>ダンゴムシの飼い方を調べることを提案する。</u></p> <p>⑥子どもの気付きを待ちながら、一緒に考えたり子どもたちの言葉に答えたりしていく。図鑑等の説明文を読み、内容を知らせる。</p> <p>⑧観察ケースを一緒に準備する。</p> <p>⑩土や石、小枝を入れる際に、どのようにしてあげるとダンゴムシが喜ぶのか投げかけ、<u>意見や疑問を聞き出していく。</u> <u>ダンゴムシはどんなところにいるのか、何が好きなのかなどを子どもたちと一緒に調べ、ダンゴムシに親しみの気持ちをもてるようにする。</u></p> <p>⑫プランターや土壌などは、動かしたら元に戻すこと知らせる。</p> <p>⑮子どもたちの気付きに共感したり、「<u>なぜだろう？</u>」と疑問を投げかけたりする。(オス・メスの見分け方など)</p> <p>⑰安全や衛生に配慮して適切な指導を行う。</p> <p>⑲子どもたちの思いに共感していく。 虫を触った後は、石鹸で必ず手を洗うようにする。</p>
<p>【翌日】</p> <p>②餌の煮干を入れる。数人で観察ケースを囲み、じっくり観察する。給食で余った食材を入れる。</p> <p>③虫の好きな子どもが、虫の苦手な子どもに持ち方を教え、苦手な子どもも触れられるようになる。</p>	<p>①<u>餌を用意し、観察のきっかけをつくり、関心を高める。</u></p> <p>④苦手な子どもがダンゴムシを触っている姿を認め、その気持ちに共感する。 ※ダンゴムシに親しみいたわりの思いをもてるように、飼育期間を配慮する。命の大切さを知らせていく。</p>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

生活

人のかかわり

学び

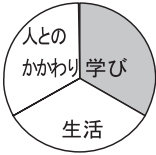
## 3つの柱 学 び

### ◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 子どもたちの興味・関心を受け止め、一緒に考えたり新たに気付かせたりするとともに自然の不思議さやおもしろさ、美しさに体験を通して触れられるようにしていく。
- 一人一人が疑問をもったことについて調べたり考えを深めたりできるように、図鑑や絵本、写真などの環境を用意する。

### ◆小学校につながる点

- 身近な自然に触れて発見を楽しんだり、考えたり調べたりすることで、自然の不思議さやおもしろさを実感し、自然に親しみをもち、自らかかわろうとする気持ちにつながる。



## 3つの柱

## 学 び (例)

「自分のくるまが作りたいな」(空き箱を使った製作活動) 4歳児 10月

## 《ねらい》

- 自分のイメージや、やりたいと思ったことを実現しようと、繰り返し取り組んだり、考えたり工夫したりする。

## ◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

## 《経験させたい内容》

- ◎様々な材料を使って、考えたり工夫したりしながら自分のイメージを表現する楽しさを感じる。
- ◎素材の性質による接着方法の違いや用具の扱い方を知る。
- ◎作った物で友達と一緒に遊ぶ。

## 《活動の概要》

- ・一斉活動で行った空き箱を使った製作活動がきっかけとなり、作ることを楽しみ出す。
- ・A児、B児、C児、それぞれのイメージで車を作り始める。
- ・材料や接着方法を選び、自分の車を作る。
- ・作った車で友達と一緒に遊ぶ。



作った車で遊ぶ

## 《環 境》(遊戯室または園庭・校庭)

- ・製作コーナーを設け、自由に製作が楽しめるようにする。
- ・空き箱や容器等のベースになる材料や様々な素材を分類して取り出しやすいようにする。  
(テープやラップの芯、割り箸、ストロー、キャップ、毛糸、ひも、紙テープ、色紙 等)
- ・テープ類や接着剤等を扱いやすいように置く。
- ・使った後の余った箱(切ってしまった物)や紙類、素材はリサイクルできる物、できない物に分けて入れられるようにしておく。



道具の棚



製作の様子

## 《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>①A児は、様々な材料の中から箱やラップの芯等を手に取り、「車ができるかな。」と思いつく。「これにする。」と洗剤の箱を見つける。</p> <p>③B児、C児が「車かぁ。」「いいね。」と言い、それぞれ箱を選ぶ。「ぼくも車を作ろう、パトカーにする。」「私は、タクシー(を作る)。」などと言いつつ。</p> <p>⑤B児はキャップを箱に付け、タイヤにする。C児も同じようにする。キャップを接着剤でつけようとするが、すぐに取れてしまう。</p> <p>⑨キャップを粘着テープで貼り、うまく付いたことを喜ぶ。</p> <p>⑩A児は材料置き場を探索し、段ボール紙を取り、自分で丸を描き、はさみで切り始める。</p> <p>⑫厚いためうまく切れず、「タイヤの丸が切れない。」と言う。</p> <p>⑬B児が「ぼくはこれ(キャップで作った)だよ。」と作った車をA児に見せるが、A児は「それは小さいもん。もっと大きいタイヤがいいんだ。」と言う。</p> <p>⑭保育者と一緒にカップを型に段ボールに丸を描く。</p> <p>⑮切ったタイヤにパスで色を塗り、ボンドで貼る。「できた。」と保育者に見せる。</p> <p>⑯できあがった車で友達と一緒に遊ぶ。</p> <p>⑰床にビニールテープを貼り、車を動かして遊ぶ。</p>	<p>②いろいろな箱や材料の中から子どもがイメージした物に共感していく。</p> <p>④A児、B児、C児とどんな車にしたいか、<u>イメージが広がるよう話し合ったり助言したりする。</u>一緒に材料を探したり、子どもが見つけた材料に共感したりしていく。</p> <p>⑥接着剤の量に気付かせる。</p> <p>⑦<u>触ったり、硬さを比べたりして紙とプラスチックの素材の違いに気付かせていく。どんな材料で接着できるか考えたり試したりさせてみる。</u></p> <p>⑧粘着テープを丸めるやり方を知らせる。</p> <p>⑩「Aちゃんは、(タイヤを)段ボールで作るんだ」とA児が自分なりに考えて段ボール紙を選んだことを認める。</p> <p>⑬段ボールで大きいタイヤを作りたいというA児の思いを受け止める。</p> <p>⑭コップを型に使うときれいな丸が描けることを知らせる。</p> <p>⑮カッターで保育者が丸を切る。</p> <p>⑯自分のイメージを実現できたうれしさに共感する。</p> <p>⑰<u>道路を作ることを提案し、ビニールテープに気付かせる。</u></p> <p>※車を動かすとタイヤがとれることもある。その際の援助を考えておく。</p>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

生活

人のかかわり

学び

## 3つの柱 学 び

### ◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 様々な材料や素材を自由に使い自分なりに形にする楽しさを味わえるように、個々のイメージに合った用具や材料の使い方を知らせていく。
- 表現の幅が広がるように、様々な材料や素材をたくさん用意し、自分なりに考えたり工夫したりできるような提示の仕方を工夫する。

### ◆小学校につながる点

- 様々な材料を使ったり、考えたり工夫したりし、イメージした物ができた喜びや達成感を味わうことは小学校での学習意欲につながる。

## 保護者との連携・理解啓発（例）

「成長の姿を理解してもらいましょう」（懇談会と公開保育） 4歳児 4～6月

### ねらい

- 友達の中で自己主張するようになる4歳児の発達の特徴を具体的に知らせ、保護者に理解してもらう。

### 計画のポイント

- 4歳児になった早い時期に、保護者に遊びの様子や友達関係の様子を伝える事で、安心して園に通わせることができるようにする。
- 保護者の話をよく聞き、思いを受け止めるとともに、子どもの成長をその都度伝えながら信頼関係をつくる。
- 公開保育を行って、実際の子どもの様子と指導の在り方を見てもらう機会とする。

## 保護者の理解を促すための取組

- 学級懇談会を通して
  - ・4歳児の実態について、担任から伝えていく。
  - ・保護者から、4歳児になって成長したと感じるところや、友達関係の変化で気になる場所などについてそれぞれの実感を出してもらい、みんなで話し合う場をつくる。
  - ・他の保護者からの話も聞き、成長を一緒に喜んだり、悩んでいることは自分の子どもだけのことではないということを感じてもらったりする。
- 個人面談を通して
  - ・保護者の心配ごとや子どもの家での様子、併せて園に対する思いなども聞く。
  - ・園での遊びの様子や友達関係の変化について伝え、子どもの姿をどうみるのか共通理解を図るように努める。
- 普段の降園時の連絡を通して
  - ・その日に感動したことや、成長したことを伝え、喜びを共有していく。
  - ・保護者に説明を必要とするトラブルや成長につながる姿について正しく、適切に伝える。原因やそれぞれの子どもの気持ちや指導の様子、成長につながる点などを分かりやすく知らせ、理解を図る。
- 園だより・クラスだよりを通して
  - ・学級のねらい、幼児の様子などを具体的に知らせていく。
  - ・写真を載せて、様子が分かるようにする。



降園時には保育の報告や連絡をしましょう

## ○公開保育を通して

- ・実際に子どもたちの様子を見てもらい、成長を感じてもらう。
- ・子どもそれぞれの立場にたった援助の在り方、成長につながる点を理解してもらう。

## 公開保育のポイント

1 日にちを何日か設定し、一日中公開することで、保護者が参加しやすいようにする。

2 事前に指導案を配布し、ねらいや活動内容を知らせ、保護者が保育内容に関心をもてるようにする。

3 活動場面は、好きな遊びの場面や一斉保育の場面を設定し、いろいろな活動が参観できるようにする。

4 実際の保育の中での様子を通して担任の子どもへの対応を見てもらうようにする。

5 副園長などが、保護者に子どもの気持ちを解説したり担任の援助の方法を伝えたりする。

6 アンケート等を活用し、保護者の感想を聞き、個別や全体に対応していく。

公開保育では地域の方の参観も予想されます。参観の仕方の周知や安全面の配慮をしましょう。

子どもはどんな気持ちなのか、なぜ保育者はこのように指導したのかなどを発達の見通しを伝えながら、具体的に伝えましょう。



子どもがどのような意味のある経験をしているのか、この経験がどのような育ちにつながっていくのかを伝えましょう。

## 保護者の感想を保育・教育に活かしましょう

- ・保護者の考えを知り保護者理解につなげる。
- ・園の保育・教育方針の理解の状況を知る。
- ・公開保育の課題を把握し、個々の保護者への対応、保育・教育方針の周知の仕方、公開保育の在り方などを改善していく。

※アンケートだけではなく登降園時などに保護者に声を掛け、感想を聞くなどしていきましょう。保護者の意見や感想に対しては、必ず園から感謝や回答などを返していきましょう。

## 保護者との連携・理解啓発（例）

「親子のふれあいを大切にしましょう」（親子ふれあいの会）

4歳児 2月

### ねらい

- 親子で楽しめる遊びや場を提供し、家庭生活においても親子で触れ合うことの動機付けとなるようにする。
- 子どもと一緒に遊びを楽しむことで円滑な親子関係を築ける機会を設ける。
- 保護者と共同企画をすることで園、保護者の連携を深める。

### 計画のポイント

- 子どもの成長に合わせて、保護者自身が子どもの頃を思い出しながら子どもと触れ合うことが楽しくなるような場をつくっていく。
- 保護者との打ち合わせや、事前の説明など、取り組み方を工夫し、保護者に関心をもって参加してもらえるようにする。
- 保護者が参加しやすい日程を設定し、参加者を募る。
  - 《例》・土曜日に設定する。
  - ・保護者会後に設定する。
  - ・保育参加の日を利用して設定する。

### 保護者との連携の進め方

- 親子での遊びをすることで、もうすぐ進級する子どもの成長を認めつつ、時には甘えたい子どもの気持ちを満たして良好な親子関係が築けるようにしていく。
- 園が園外での子どもたちの様子や遊びの環境などについて情報を収集し、園の外でも友達と一緒に遊びを行っていくことの大切さを家庭に発信していきながら、園と家庭の連携を継続していく。

#### 保護者への働きかけ（例1）

《親子でわらべうたをうたってみよう》  
寝る前のほんのひととき・・・、お風呂に入ったとき・・・などちょっとした時に、わらべ歌を歌いながら子どもとのスキンシップを楽しみましょう。わずかな時間でも子どもはとても喜ぶます。そんな時間を大切にしていきましょう。

#### 保護者への働きかけ（例2）

《子どもと触れ合いましょう》  
歌いながらリズムカルに動くことは子どもたちにとってとても楽しい遊びです。保護者の皆さんも身体がほぐれ、楽しい気分になりますよ。お子さんとのふれあい遊びを通して、かわいい笑顔をたくさん受け止めてあげましょう。



## 当日の流れ

- 1 あいさつ
- 2 園からの話
- 3 準備体操をする  
(リズム体操など)
- 4 親子での集団遊びを行う
- 5 お話を聞く  
・親子のふれあいの大切さについて
- 6 各親子で触れ合いながら体を動かして遊ぶ  
・子どもを入れ替えて触れ合う
- 7 感想を言う
- 8 閉会

## 配慮事項

- ・動きをゆっくり知らせ、友達や親子でおしゃべりしながらできるようなゆとりをもって進めていく
- ・子どもの表情を見ながら楽しんでいけるよう保護者に伝えていく
- ・感想を伝え合うことでふれあい遊びの楽しさを共有する。
- ・自分の子どもと他児との違いを感じ、それぞれの子どものよいところを知る。
- ・家庭でもやってみようという雰囲気をつくっていく。



親子で一緒にガラスペイント

ふれあい活動以外にも、ものづくりなどさまざまな取組が考えられます。また、地域の方や専門的な知識のある方々をお招きするなど工夫してみましましょう。

## 取組例について保護者への説明のポイント

- ・子どもと触れ合い、スキンシップをたくさんすることが、乳児期はもとより幼児期においても大切なことであること、親が自分に向き合ってくれている安心感が心を安定させ、意欲ある生活につながることを説明する。
- ・昔ながらのわらべうたなどを取り入れることによって、短い時間でも楽しく子どもと触れ合うことができることを伝える。
- ・自分の子どもの状況を見つめ、保護者自身の子どもの頃を思い出しながら聞けるように、具体的な事例などを挙げながら、親子のふれあいの大切さについて話をします。
- ・自分の子ども以外の子どものと触れ合ったときの実感を大切に、それぞれの子どものよさを知らせていく。



親子で身体を動かす

